

元龜元年十二月十八日

元龜二年 辛未 紀元二二二一

三月二十日。上杉謙信、能登守護畠山義隆の被官等に、その越中に於ける戦況を報す。

【歴代古案】 一五二七

如被申越(長藤)、神保色々被敷候間、不圖出馬、十七日神通越河、十九三日之内敵地悉落居、内々守山(射水郡)・湯山(氷見郡)可擬落處、六同寺斷而水増故、于今不被越河候。於時宜者可心安候。被入心飛脚早々喜悅候。可加懇意心中ニ候間、同意肝心候。恐々謹言。

三月二十日

謙 信

温井(景隆)兵庫助殿

長九郎左衛門殿(綱連)

平 新左衛門殿(翁知)

遊佐孫太郎殿(盛光)

五月十七日。畠山義胤、鳳至郡大澤村に定夫を

徴す。

【筒井文書】 鳳至郡

一五二八

棟並半分百人夫、從大澤村拾五人六月一日ヨリ八日迄、十貳人九日ヨリ十六日迄、以上廿七人爲御定夫可被詰之旨、依仰配符如件。(畠山義胤)

南 志 見

元龜貳年 五月十七日

光 連

人足日之下へ

秀 堅 在判

可被相渡者也

宗 在判

實 安 在判

光 家 在判

正 盛 在判

續 親 在判

彌 郡 殿

綱(從賜) 盛 在判

十一月五日。本願寺顯如、坊官七里頼周を加賀に派遣し、國中門徒をして馳走せしむ。

【本誓寺文書】 石川郡

一五二九

去年以來軍役等忠功至極候。雖然加越兩國申合可令馳走事專要候。爲其七里三川法橋さし下候。委細可申候。彌法義のたしなみ肝要にて候。不信にて命終候は、後悔は際限あるまじく候。能々覺悟あるべき事にて候。穴賢々々。

十一月五日

顯 如 在判

加州四郡中へ

十一月。竹村宗良、鹿島郡府中山王社に懸繪を奉納す。

【府中山王社懸繪裏書】 鹿島郡

一五三〇

祈願成就所

元龜二辛未十一月吉日

竹村宗良

十二月九日。幕府、山城曼殊院門跡領江沼郡富墓莊代官北野社松梅院禪興の訴に依り、同門跡雜掌をして年貢過上分を還付せしむ。

【曼殊院文書】 山城

一五三一

北野社松梅院禪興申加州富墓庄上分卅貫文事、先年依訴申之、爲政所稱未進答、未納半分懸過料、都合參百卅九貫三百餘、去永祿五年及算用對決、此内五拾貫被指置之、殘貳百八十九貫三百餘敷、禪興令沙汰内有過上候、重十月遂算勘之處、連々相渡分參百八十九貫貳百餘請取在之。然者未進過料悉相澄、過上九拾九貫八百餘敷。爰候人備後法橋卅貫文請取之落、今度出帶之。此過料拾五貫文取返之間、速可被返渡之。次過料事、惣別向後堅可被停止候。將又先年落居奉書不出帶之、算用對決以前捧御下知未進段言上、以外次第也。次今度對門跡、相付磯谷折紙之條、只今訴論無其詮之旨申之間、於彼等者、可被加御詞之趣雖被仰出、被引取證文儀云御法云、如上述、旁以於此訴訟者不可被聞食入者也。所詮至過上者、早速可被返付之。若於難難者可催促之旨、被成御下知畢。宜被存知之由被仰出候也。仍執達如件。

元龜二十二月九日

淨(中澤光俊) 永 在判